

みなさん、こんにちは！
いや、こんばんは！ かな？
あれ、まっ、どっちでもいっか。
今、これを書いているのが夜中なもので...

さて、いよいよ『デイサービス楽蔵(らくら)』が10月よりグランドオープンしました。
先日のオープンイベントには、たくさんの方々にお祝いして頂き、本当にありがとうございました。
心より感謝申し上げます。

ここまでこれたのも、ひとえに皆様方のお力添えあつてのことです。

私ひとりでは何もできません。

お客様、社員、関連業者様のおかげです。

もうすでに、『デイサービス楽蔵(らくら)』、2階の『老人ホーム 楽蔵館(らくらかん)』、
そして別棟の『高齢者向け賃貸住宅 由美館(ゆうびかん)』とも大好評でして、たくさん
の利用者様が、とってもお喜びになられております。

我が社の基本理念は、お客様に喜んで頂くこと。

どんなに仕事がキツくても、大変でも、

“ お客様の笑顔のために ”

これを合い言葉に頑張っております。

するとお客様から、にっこり笑顔で“ありがとう”の愛言葉がもらえるんです。

この一言で疲れが全て吹き飛んでしまいます。

愛のある社員が愛のある行動(仕事)をすると、愛言葉のご褒美がもらえる。

すばらしい循環です。

何のために仕事をするのか。

ウチの社員さんは、全員この意味を知ってます。

お金だけじゃない、もっともっと大切なことがあることを。

だから頑張れるんでしょう。毎日毎日、夜遅くまで会議をしたり、準備したりと本当に、
ご苦労様でございました。

普通、主婦の社員さんだと、自分は主婦だから、子供いるから、家庭があるからといった
不平不満、グチ、泣き言を言うもんですが、ウチの社員さんは誰ひとり言いませんよね。
ホントすごいなあって思います。もちろん家族の方のご理解、協力あつてのことと思いま
す。この場をおかりして、ご家族様にも感謝申し上げます。

現在、杉原設計では建築、保育、介護の三本柱で運営しておりますが、来年の1月より保育、介護を分社化いたします。保育、介護の新会社は株式会社 SEI 喜羅里(セイ キラリ) 代表取締役 杉原 由美の方へ移行しますのでよろしく申し上げます。

まあ、厳密には経営者が変わりますが、基本的に夫婦ですので、働く社員さんにとって、大きな変化はないものと思われまので、ご安心下さい。

今月先月と、建築、保育、介護事業部にて高校生の体験学習がありました。

まず彼らにお話ししたのは、働き始めてからわかること、働くうちに変わることがある。という事を教えました。

まあ世の中ですから、必ずしも自分がやりたい仕事につけるとは限りません。

それでも、社会に出たら何かしらの仕事はしていかなきゃならない。

例えば、自分の興味の無い仕事、不本意に思えた仕事であっても、上司や周囲に恵まれ、働く意味、意義づけができれば天職になると思うし、逆に熱望した仕事であっても、人間関係が崩れていたら、途端にやりがいのないものになってしまうと。

こーんな話し、今どきの高校生は聞いてらんねーよ、みたいな顔するのかと思いきや、みんな目をキラキラさせながら、ウンウンうなづきながら聞いてくれたんです。

つい私も調子に乗って、いろいろ長話ししちゃったけど、最後の感想レポートに「学校では教えてくれない、大人の話しが聞けてとてもためになりました。」と書いてあつてすごく素直な子たちだなあと思って思いました。

正直私もはじめは、たった3日間体験学習したところで、何も変わらないだろうと思っていたのですが、いやいや間違いなく彼らは考え方の面で成長していきました。

来年もまた別の高校生が来るので、今から楽しみです。

私の得意な話しに、“人生”や“生き方”をテーマにしたものがあります。

人は何のために生まれてきたの？って聞かれたら、私は『修行』と答えます。

人生は修行なんだよって。

その人生で一番つらい修行は？って聞かれたら、『結婚』と答えます。

だから簡単に離婚してはダメ、修行にならないから。

大変なのは、わかるけど、そのつらさを耐え忍ぶところに修行の意味があると思います。人生も同じ。

生き続けるのは大変なもの。

でも、もし考え方ひとつで心がラクになるとしたら？

人はたいがい誰かと自分を比べて、わざわざ悩みをつくってます。

では、人生を山登りに例えてみましょう。

当たり前だけど、人によって登る山が違う。

高い山、低い山、なだらかな山、険しい山、いろんな人がいるように、いろんな山があります。美しい花が咲いてる山もあれば、密林の茂る山もあるでしょう。

その山をどう登るかは、自分の自由なんです。

大回りしながら山頂を目指すもよし、一直線に駆け上がるのもよし、のんびりと休み休み登るのもよし、いかなる登り方をしようとも、それはその人の自由です。

どんな登り方をしても、登るべき山、送るべき人生に間違いなどありません。

でも人って、どうしても誰かと比べてしまうんですね。

他の人が登る山をみて、あの人はなだらかな山でいいなあとか、花が咲いてたり、木の実が豊富でうらやましいなあとか。

そんな時、たまたま自分が絶壁よじ登ってたりするとなおさら。

でもそれは、全て他人との比較で生きてるからなんです。

他の人が登る山など目もくれず、自分が登るべき山を、自分なりの方法で登ればいい。まさに人生も同じだと思うのですが、いかがでしょう。

アメリカの心理ワークに「デス・エディケーション」、つまり「死から学ぶ」という教育があります。生きているということはどんどん死につながっているということ。

私たちは今この瞬間にも、どんどん死に近づいているということでもあります。

その「デス・エディケーション」のセミナーで、「あなたの命があと3日しか無かったら、あなたは何をするか。遺書を書くとしたら誰に書くか」というテーマで話し合いがありました。面白いことに誰も社長になりたいとか、白亜の豪邸に住みたいといったことは、発表しませんでした。

発言はどれも『あの人にごめんなさいと言っておこう』『家を飛び出したので、ママを抱きしめに家に帰る』『妻や子供と楽しい思い出をつくる』といった胸を打つものばかりでした。先生はその時「素晴らしい発表をありがとう」と授業を締めくくられました。しかし、帰り際に先生が「皆さん、1つだけ質問していいですか？」と尋ねられたのです。何だろうと思っていると、「皆さんは時間が三日間しか残されていないときに出来ることを、どうして一生あると、出来なくなるのでしょうかね」といたずらな瞳で首をかしげながら言われたのです。参加者は全員絶句していました。

まさにそうですね。

何のために生きてるんだろう、何が幸せなんだろうって考えた時、やっぱり地位やお金じゃないと思います。

本当に大切なもの。

忙しい毎日にかまけて、忘れてました

最後に、ニューヨーク州立大学病院に入院されていた患者さんが
病室に書き残した『神の慮り(おもんばかり)』という詩を紹介いたします。

大きなことを成し遂げるために、力を与えてほしいと神に求めたのに
謙虚さを学ぶようと、弱さを授かった
より偉大なことができるようと、健康を求めたのに
より良きことができるようと、病弱を与えられた
幸せになろうとして、富を求めたのに
賢明であるようと、貧困を授かった
世の人々の称賛を得ようとして、成功を求めたのに
得意にならないようと、失敗を授かった
人生を楽しもうと、たくさんのもを求めたのに、
むしろ人生を味わうようと、シンプルな生活を与えられた
求めたものは何一つとして与えられなかったが、願いはすべて聞き届けられていた
私はあらゆる人の中で、もっとも豊かに祝福されていたのだ

みなさんは、この詩を読まれて、どんな気持ちになりましたか？
私はこの詩と初めて出会った時、胸にこみ上げる何かを感じました。
それと同時に、自分自身の生き方が恥ずかしくなりました。
そして、大切なことに気づいた...
本当は、生まれてきただけで、とても幸せなんだと。
他人との比較で生きるのではなく、与えられた命にまず感謝しなきゃ。

現在この詩は、ニューヨーク大学病院のロビーに掛けられているそうです。

平成 19 年 11 月吉日
株式会社 杉原建築設計事務所
代表取締役 杉原 吉朝